

オクタマシダ *Asplenium pseudowilfordii* Tagawa

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。深山性のシダ植物で、愛知県では点在しているが、どこも個体数が少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は直立または斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 8~15cm、背面は緑色、腹面は紫褐色、基部はやや密に、上部はまばらに披針形の小さい鱗片をつける。葉身は広披針形、2回羽状に切れ込み、長さ 10~25cm、幅 3~7cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 10~15 対、長さ 5mm に達する柄があり、小羽片は 2~4 対、基部上側のものは羽状に中~全裂する。胞子のう群は長さ 1.5~4mm、裂片の中肋と辺縁の中間、またはやや中肋寄りにつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 46800, 1987-8-30）、2 豊根（山崎玲子 724, 1993-12-19）、3 東栄（芹沢 79351, 2004-8-22）、6 設楽西部（芹沢 82598, 2007-10-6）、7 設楽東部（芹沢 64509, 1992-10-30）、8 鳳来北東部（芹沢 83842, 2008-11-6）、12 新城（小林 31230, 1987-4-20）。尾：45 犬山（村瀬正成 4881, 1992-5-5）、48 春日井（日比野修 2019, 1994-4-29）。4 津具と 5 稲武にもあるという（小林 2006）。

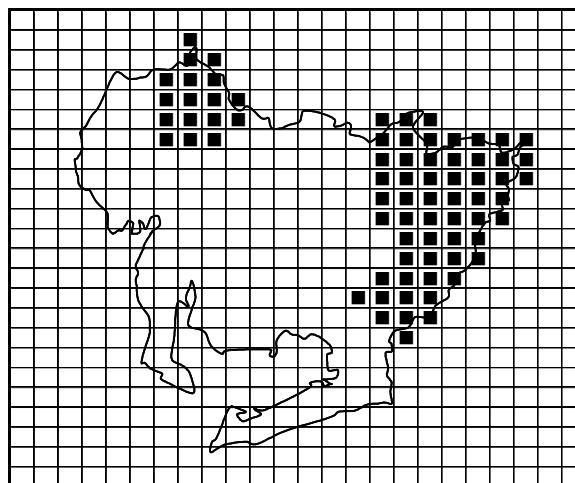
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

空中湿度の高い沢沿いの岩壁の、しかし岩自体はそれほど過湿でない場所に着生する。樹幹に着生することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

産地は比較的多いが、どこでも個体数は少ない。一部の場所では、夏の高湿乾燥傾向の影響を受けて衰退している。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

自生地には、しばしば本種とトキワシダとの雑種であるミサクボシダ *A. × iidanum* (Sa. Kurata) Shimura et Takiguchi も生育している。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.108. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保シダ 151, 平シダ p.147-148, 学シダ I p.411.